—身近な生き物と保全③—

里のホタル、街にもホタル？！

担当：信州大学理学部生物科学科　田中健太郎・藤山静雄，
松本市庄内　上條慶子

○ 自然を守るつもりがこわしている！？

みなさんはホタルを見たことがありますか？川や田んぼなど水のあるところに住んでいて、夜になると光るふしぎな虫でとても人気があります。

でも、かつては身近にいたホタルも人が自然を開発するとだんだん住めなくなって、今はとても少なくなっています。

そこで、ホタルなどかつては身近にいた生きものたちを守ろうとする取り組みがさかんに行なわれています。

ところが、ホタルを守ろうとする取り組みが、ホタルたちをいじめている場合があるのです。

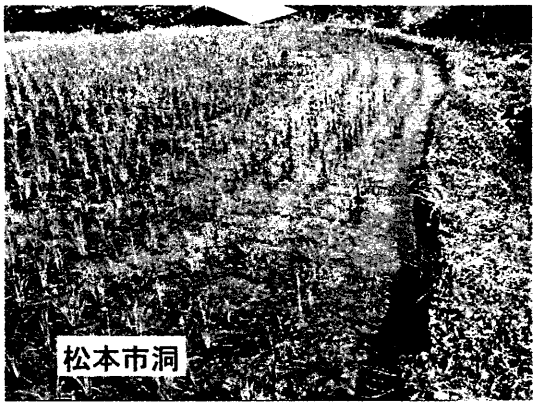
ゲンジボタル

ヘイケボタル

○ 街にもホタル？！

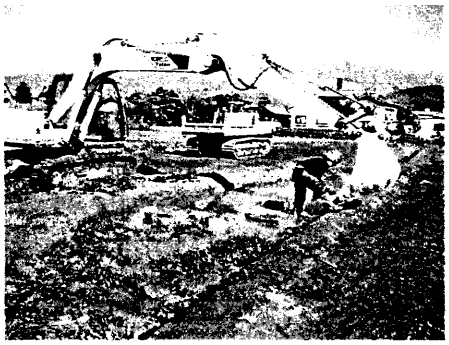
「里のホタル」はあたり前。どうして街にホタルが居るの？
中央図書館前の川に、ゲンジボタルが戻ってくれたのは4年前。
「街にもホタルを出したい。」「ホタルの居場所をつくって増やしたい。」
最近、そんな話を良く聞きます。
あちこちでホタルが減ってしまったのは、人間のせい。なのに、勝手ですね。
ホタルが自然に住める場所は、「つくる」のではなく、残していくのが一番なのです。

女鳥羽川


松本市洞

◇水田を街にするため引っ越す運命になった、松本市庄内のホタルたち。
田んぼ跡のぬかるみから出発した移転先のその後は？

2003年 秋のひっこし ⇒ ⇒ 2006年（小6視察隊） ⇒ 2007年



あとは展示をお楽しみに！